

## 2019 年 感染防止対策室業務活動報告

感染管理認定看護師

荒 木 大 輔

感染防止対策室長

今 信一郎

### はじめに

今年は 1 月中旬よりインフルエンザのアウトブレイクが発生し、3 階西病棟、4 階東病棟の病棟閉鎖を余儀なくされた。院内全体での入院患者への面会制限、整形外科においては定期入院、手術の延期や救急車の受け入れを制限、さらに両病棟の患者、職員への予防内服等の対策を行ったものの終息には時間を要した。感染防止対策室開設 7 年間の中で一番の大きな集団発生であったとともに、日頃からの感染予防対策の必要性を痛感した出来事であった。

また、昨年組織した抗菌薬適正使用支援チーム（AST）の活動は 2 年目を迎え、「耐性菌を生まないための治療への支援」を使命として、医師、薬剤師が中心となり、週 2 回のカンファレンスの中で、各科の抗菌薬の使用状況を把握し、アドバイスをを行うことで、少しずつではあるが抗菌薬の使用状況にも変化が見えてきており、職員にもその役割を周知できた年であった。

さらに、3 月には電子カルテシステムが更新となり、合わせて感染管理システムも更新することができた。それにより、サーベイランスや AST カンファレンス、委員会資料の作成等が容易となり、効率的な活動ができていく。

チームとしては、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技

師の 4 職種がそれぞれの部署での役割を十分発揮し、よりよい連携、コミュニケーションが継続して図かれている。今後もより一層、院内感染拡大防止に向けその役割に邁進していきたい。以下に今年の活動内容を報告する。

### 1. MRSA・緑膿菌の在院患者当たりの陽性者率（図 1・図 2）

2019 年における MRSA、緑膿菌の在院患者当たりの陽性者率は、昨年と比較しそれぞれ 2.13%、2.15%と著変はなかった。昨年に引き続いて持ち込みでの発生も多くあった。3 年毎の MRSA・緑膿菌在院患者当たりの陽性者率は増加傾向にある。手指消毒剤使用量の増加により、著明に MRSA の検出率が下がったという報告も複数ある。4. 手指衛生向上のための取り組みでも述べるが、当院の手指消毒剤の使用量は少しずつ増加しており、今後の値に期待したい。

### 2. ICT ラウンド（写真 1・2）

今年の ICT ラウンドも継続して、個人防護具の着脱手順の理解や手指衛生の 5 つのタイミングの理解度を把握するため、個人の評価を中心に行った。昨年、血流感

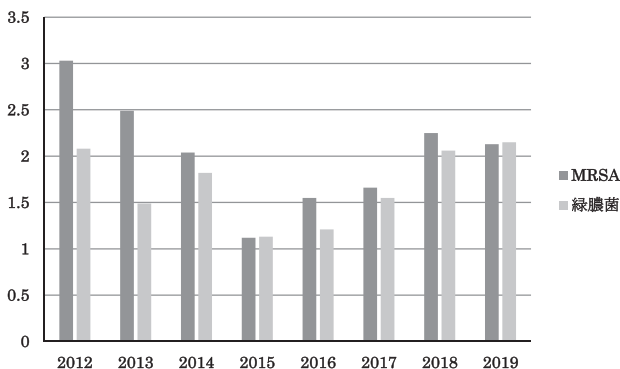


図 1 MRSA・緑膿菌の在院患者当たりの陽性者率 (%)

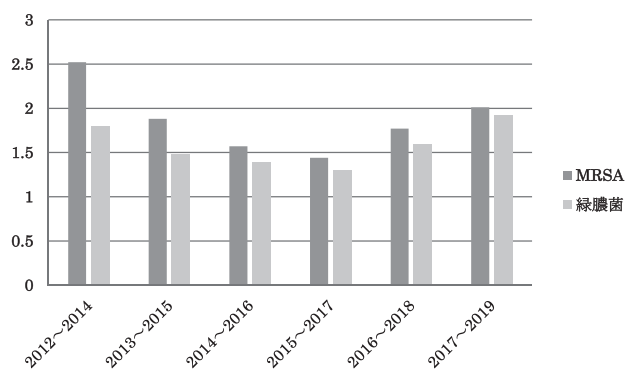


図 2 3 年毎の MRSA・緑膿菌在院患者当たりの陽性者率 (%)



写真1・2 ミキシング台の環境改善（4階南病棟・3月→12月）

染が数例認められたことから、病棟での注射準備環境の見直しを目標とし、ミキシング台の環境改善に向けた巡視も行い、各部署で成果が現れていると感じる。

### 3. AST カンファレンス（写真3）

カンファレンスは毎週火曜日と木曜日の2回開催し、対象症例をチームで検討、各科の医師へ報告している。チームにはASTサポートドクターを設け、より専門的なアドバイスを受けながら抗菌薬の使用状況の経過を観察することができている。

〈対象となる主な症例〉

抗MRSA薬、カルバペネム薬、広域抗菌薬、15日以上  
の長期使用患者、血液培養陽性患者、CRP高値患者等  
〈ASTサポートドクター〉

・泌尿器科：伊與木医師、整形外科：塚本医師、呼吸器  
内科：渡部医師、柳医師、消化器内科：山川医師



写真3 AST カンファレンスの様子

### 4. 手指衛生向上のための取り組み

#### 1) 手洗い講習会（図3・4）

今年の手洗い講習会もICTで講義を行い、例年通り手洗いの実技を行った。昨年に引き続き修了証シールの



図3 今年の手洗い講習会修了証シール



図4 院内に掲示した手指衛生の取り組みポスター

デザインは職員から公募し、薬局の神優菜さんのイラストを採用した。また、修了証シールはネームに付けることを徹底し、病院を利用する人々にも手指衛生を全職員で取り組んでいることをアピールするため、ポスターを院内各所に掲示した。

## 2) アルコール消毒剤使用量モニタリング (図5)

アルコール消毒剤の使用量の測定は4年目となり、今年より外来部門でも使用量の測定を開始した。各部署で様々な取り組みを通し、使用量の増加を目指しているものの、まだまだ目標を達成できる部署が少ない現状にある。各診療科の特徴を踏まえた目標の設定と個々の意識

の変容を課題としたい。

## 5. コンサルテーション (図6)

今年の主な相談件数は549件で、昨年よりやや増加した。これまでは、洗浄・消毒・滅菌についての相談が一番多かったが、集団発生があったインフルエンザについての問い合わせが大きく増加した。また、このうち60件程度は地域連携ネットワークをはじめとする他医療機関からの問い合わせであり、各医療施設との良好な連携が図られ、迅速な情報共有につながっている。

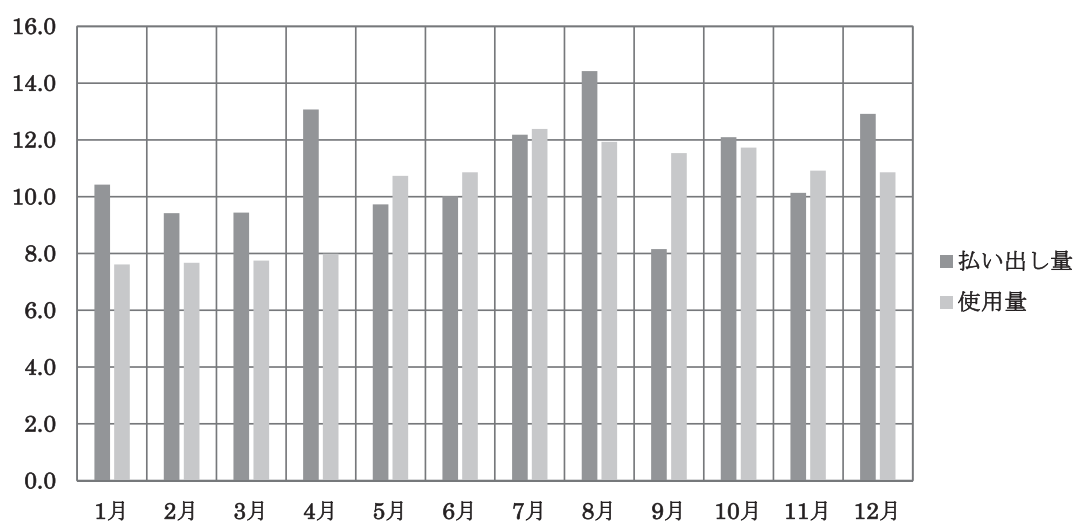


図5 年間の1患者1日当たりの払い出し量・使用量の推移 (mL)

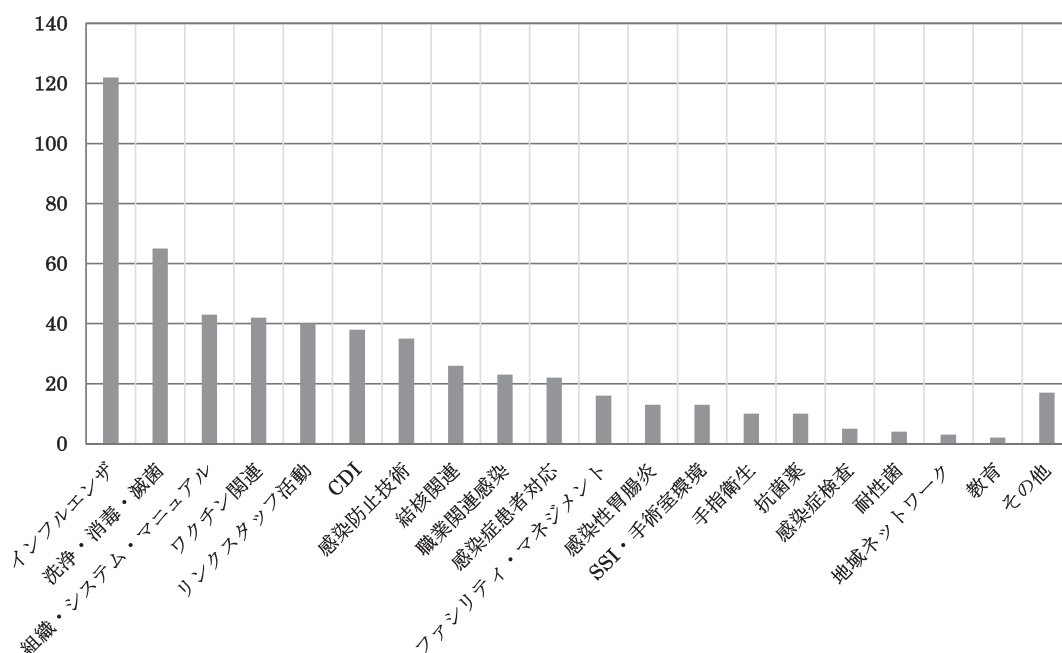


図6 コンサルテーション内容の内訳 (件)

## 6. リンクスタッフ活動（表1）

リンクスタッフの業務として、アルコール消毒剤使用量のモニタリング、自部署の感染対策上の問題点を抽出し、業務改善につなげ、その取り組み成果についての活動発表、連絡事項の周知を主な活動内容として、現場の感染対策のリーダーとして積極的に取り組んでいる。リンクスタッフ活動発表会は6年目を迎え、今年も3日間の日程で院内発表を行った。今年より伊達赤十字病院のリンクスタッフ2名が当院で発表、当院からも5階東病棟山田晃也さん、リハビリテーション科畠山瞳さんが伊達赤十字病院で発表し、相互の取り組みを共有した。

## 7. 西胆振感染対策地域ネットワーク

（表2・3・4）

昨年と同じく、加算2を算定する登録すずらん病院、

洞爺温泉病院、未加算のミネルバ病院との連携の中で、日常的なコンサルテーションを基本としながら定期カンファレンスを開催し、各施設の抱えている問題を情報共有でき有意義な時間を過ごすことができた。

## 8. 院内研修会（表5・6・7）

今年も多く協力を得て、様々なテーマで研修を開催することができた。年2回の加算要件にかかわる研修は職員に浸透し、参加者は大きく増えている。研修会の開催も回数を増やす工夫を行い、欠席者には、院内 Web での事後学習、感想文の提出をもって参加としているが、その取り組みも浸透してきた。

## 9. その他の活動記録（表8・9・10）

今年も ICT、AST ニュースを適宜発行し、職員へ迅速

表1 2018年度リンクスタッフ活動発表会

第1日目 1月18日（金）

	氏名	部署	演題名
<b>＜1. 手指衛生＞</b>			
1	中田 知美	泌尿器科外来	外来診療における医師の手指汚染度と手指衛生の意識付け
2	早川 武志	4階南病棟	アルコール製剤使用量を上昇させるためのスタッフへの効果的な関わり
<b>＜2. 環境整備＞</b>			
3	相田桃太郎	中央手術室	手術室内の床清掃の手技統一を目指して
4	田中健太郎	放射線科	放射線科固定電話機の汚染度調査と改善に向けて
5	高橋亜由美	訪問看護室	センター内各部署における清掃に関する取り組み
6	清水美小夜	リハビリテーション科	訓練室設備に対してのスタッフの衛生意識の向上を目指す
<b>＜3. 教育・啓発＞</b>			
7	西村あずさ	4階東病棟	スタッフの感染対策に対する意識向上へ向けた取り組み
8	酒井みどり	ICU 病棟	感染対策の基本を再認識し実践する事を目指す

第2日目 1月21日（月）

<b>＜1. 手指衛生＞</b>			
1	梅津 嘉光	6階東病棟	アルコール手指消毒に対する意識付けと使用量増加に向けた取り組み
2	北村 隆典	6階西病棟	手指衛生強化活動 ～2つのタイミングでの実施を試みて～
<b>＜2. 環境清掃＞</b>			
3	氏家 瑠南	4階西病棟	ミキシング台使用の現状把握と改善に向けての取り組み
4	山本 章暁	日清医療食品	調理台の衛生状況の改善に向けて
<b>＜3. 物品管理＞</b>			
5	北口 恭平	5階東病棟	スマートフォン清掃活動統一への取り組み
6	石村 充	人工透析室	ステートによる感染・伝播の可能性を意識づける
7	山本 佐貴	臨床検査科	病棟・外来で行う検査における物品の清掃状況と関わる技師の感染対策への意識調査

表1 2018年度リンクスタッフ活動発表会（続き）

第3日目 1月22日（火）

	氏名	部署	演題名
<b>〈1. 手指衛生〉</b>			
1	福地真理子	救急診察室	手指衛生の遵守向上への取り組み
2	西山加那子	薬局	調剤室における手指衛生5つのタイミング
3	鈴木 由美	2階南病棟	続：擦式手指消毒薬の使用量を増やすための取り組み
<b>〈2. 感染防止技術〉</b>			
4	坂田 風彩	HCU 病棟	脳神経疾患患者への尿道留置カテーテル抜去への取り組み
5	阪東 利香	3階西病棟	尿路感染防止のための尿破棄方法の見直しによる意識の変化について
<b>〈3. 個人防護具〉</b>			
6	山田 祐樹	内視鏡検査室	上部内視鏡検査時のエプロン・ゴーグル着用率向上に向けて
<b>〈4. 物品管理〉</b>			
7	福沢 暁美	3階東病棟	病棟におけるスマートフォン清拭方法の更なる改善を目指して
<b>〈伊達赤十字病院〉</b>			
8	吉田 光介	消化器病センター	回診車廃止についての取り組み
9	竹内亜耶香	検査室	生理機能における感染対策

表2 西胆振感染対策地域ネットワーク参加施設

	1	2	3	4
加算1算定	市立室蘭総合病院	製鉄記念室蘭病院	日鋼記念病院	伊達赤十字病院
加算2算定	登別すずらん病院 洞爺温泉病院	室蘭太平洋病院	聖ヶ丘病院 洞爺協会病院	JCHO 登別病院
未算定	ミネルバ病院	三愛病院 そうべつ温泉病院	豊浦国保病院	三村病院

表3 地域ネットワーク合同カンファレンス

	開催日	テーマ	参加者
全体開催	3月7日	手指衛生をさらに遵守向上させるための取り組み	75名
	6月4日	インフルエンザ対策について	88名
小グループ開催	9月2日	感染にかかわる委員会の実施状況	16名
	12月2日	結核対策	19名

表4 地域相互ラウンド

回	開催日	内 容
第1回	9月10日	伊達赤十字病院 ICT が当院中央手術室、4階西病棟、検査科をラウンド
第2回	10月8日	当院 ICT が伊達赤十字病院手術室、検査科、3階病棟をラウンド

表5 ICT勉強会の記録 ※感染にかかわる加算算定要件の研修

回	開催日	テ ー マ	演 者	参加者数
第1回	5月27日	結核と非結核性抗酸菌症	極東製薬株式会社 葛原 繁明氏	123名
第2回	6月17日 ①15:00～ ②17:30～	学会発表報告	感染防止対策室 荒木 大輔	計145名
第3回	10月23日 ①15:00～ ②17:30～	インフルエンザ対策※	感染防止対策室 荒木 大輔 4階東病棟 堀切 理恵 リハビリテーション科 三浦和佳子	計296名

表6 AST勉強会の記録 ※感染にかかわる加算算定要件の研修

回	開催日	テーマ	演者	参加者数
第1回	3月18日	実は、こんなコトしてました。 ～AST活動報告～※	薬局 金子 圭太	82名
第2回	11月19日	抗菌薬のタイムアウトを知っていますか？	外科・消化器外科 宇野 智子	62名

表7 院内感染対策委員会主催研修会の記録 ※感染にかかわる加算算定要件の研修

開催日	テーマ	演者	参加者数
8月1日 17:30～ 8月9日 15:00～ (ビデオ上映)	医療機関における感染防止対策 ～新興・再興感染症への備え～※	厚生労働省東京検疫所 東京空港検疫所支所検疫衛生課 厚生労働技官検疫官 長瀬 仁氏	計313名 (地域連携施設 13名含む)

表8 ICT News の記録 針刺しレポートは毎月1日、インフルエンザ週報は流行期毎週発行

発行月	タイトル
1月	インフルエンザ警報継続中
4月	病室の仕切りカーテン、危険な病原菌のすみかに 調査報告
8月	院内感染対策委員会主催研修会が終了しました

表9 AST News の記録

発行月	タイトル
2月	AMRちゃんと対策しよう！ アネメトロ®点滴静注液の供給が再開しました！
3月	セファゾリンナトリウムが供給停止になります。
5月	サポートドクター！！今年度もよろしく申し上げます。
6月	1970年発売！古くても使える薬！セファレキシシン錠 発刊！腎機能別投与量
7月	セファゾリンナトリウム1g「日医工」の院内在庫が残りわずかです！数量限られていますが、セファメジンα®注射用1gを臨時採用します。
9月	抗菌薬供給再開のお知らせ 管理抗菌薬（届出制）の運用方法が変更となります内服薬の管理抗菌薬（ザイボックス®錠）にも使用届出票が必要となります。
12月	CD感染症の条件

表10 マニュアル改訂等

マニュアル改訂	〈院内感染対策マニュアル〉4月全般見直し 3. 感染対策の手技、4. 洗浄・消毒・滅菌法、12. 疥癬、14. 血管内留置カテーテル関連感染防止、15. 一般的な手技における注意事項、17. 抗菌剤の使い方、24. 季節性インフルエンザウイルス対策、26. クロストリディオイデス・ディフィシル感染症対策、28. 麻疹・風疹、水痘、ムンプス（小児流行性ウイルス疾患） 〈抗菌薬適正使用マニュアル〉4月全般見直し Ⅰ抗菌薬適正使用の原則の項目改訂、Ⅴ薬物血中濃度モニタリングの項目改訂、Ⅵ管理抗菌薬の項目改訂、Ⅶ抗菌薬（各論）の項目改訂
新規導入採用変更	感染管理支援システム更新、ハイブリッドグローブさくら採用、環境清拭クロスクリネルの病棟採用

に最新のトピックスをアナウンスすることができた。特に今年は、複数の抗菌薬の供給停止があり、それらについてもASTニュースが迅速な周知に一役買ったと感じている。

マニュアルにおいては、今年も多くの項目を見直すこ

とができた。業務中、職員が自ら進んでマニュアルを開き確認しているのを目にすることも多くあり、今後もさらに改訂を重ね、その役割を果たしていきたい。

---

## 10. 院外活動

1. 荒木大輔：疫学と統計学 アウトブレイクの調査・介入 講師 北海道医療大学認定看護師研修センター（2019年7月8日 札幌）
2. 荒木大輔：日本感染管理ネットワーク学会北海道支部日胆ブロック役員